

ユング	A. ストー 著 河合隼雄訳	禁断の岩波文庫（働きの悪い脳みそ状態のわたしには）が久しぶりに読む本でいいのか！？いや、ちょっとむぼーでした。河合センセの訳なので、難しすぎることはないです。ユングは生まれるのが100年早かった、とは弟子の言葉ですが確かに当時ユング派はマイノリティーグループでフロイトとの決別あたりからユングの非科学的ともいえる論文や発言が批判的になります。今もしかり、だろうけれどこの本はユング派でもフロイト派でもない中立的な立場で書かれていて（河合氏はユング派の分析家ですが）そういう面では良かったです。しか～し、まだ読んでない山積みの本の中に同じく岩波の「フロイト」もある。ははは～。いつ読もうか？ そういえば先日、世界中の精神分析家や心理療法家を対象に『一番役に立たなかった心理学者は？』とアンケートをとったらフロイトは2位だったそうです。理由は『文献はあるけど精神病者の役には全くなってない』ということらしい。	☆☆
あなたが子供だったころ	河合隼雄	哲学者や作家、画家など10人との対談集です。子供って日々戦いだな、って感じました。わたしが子供だった頃もやっぱり今日1日を生きること全力で戦ってたもんな。子供にとってのお母さんの存在は当たり前だけど大きくてそしてそれに附随して取りまくいろんな他者との関係も大きな意味を持ってくる。自分の子供の頃のことものろい思い出したけれどそれにしてもそれぞれのジャンルで第一線で活躍してる方々の子供時代ってやっぱりすごい戦い方してるなと感じました。	☆☆☆
愛でもくらす	ビートたけし	たけしの幼少時代から奥様とのこと、子供のことなどなどとってもおもしろく読みやすいエッセイ。たけし大好きなんだけど、この本もとても良かったです。所々に彼の詩も挿入されていて、それもまたいい。その中で好きなものをひとつ。「青い空がこんなに悲しいとは思いませんでした春の日差しがこんなに痛いとは思いませんでしたぼくのこころのぬくもりはどこへ行ってしまったんだろうきれいな花が悲しいと気がついたのはいつからだろう」彼って本当に繊細な人だと思う。	☆☆☆☆

<p>結局 わかり ませんでした</p>	<p>ビートたけし</p>	<p>たけちゃんと数学者や解剖学者、お医者との対談集。 風水についてやDNAについての対談はとってもおもしろくって読みやすかった。多様性というのが全ての生物の基本であるのに対しひとつの理論で全てを表わそうというキリスト教的一神教の影響を受けた西洋科学には限界があると西洋科学の教養深い方々が述べられていてこれまたおもしろい。 科学を追求するために必要だった西洋思想と、懐深い東洋思想とが融合していけば、ほとんどの人種間のトラブルが解決するだけでなく科学と宗教の境なんかもなくなってしまうのでしょうかね。</p>	<p>☆☆☆☆</p>
<p>のほほん人間 革命</p>	<p>大槻ケンヂ</p>	<p>今のエンコしまくりブレイン状態の由佳ちゃんにはぴったりの1冊だった。 またもや笑えて笑えて大槻の文才には頭があがらない。絶対にドラッグはやらないと決めているものの、人一倍ラリラリ状態に興味ある彼が合法ドラッグ体験する話にしても、お得意のUFO本に対するツッコミにしてもとにかく笑える！ そしてそして巻末の弁護士 遠藤誠との対談は笑えるだけでなくまじにおもしろい！お暇な方、ちょっと脳を休ませたい方、是非読んでみてほしいです。</p>	<p>☆☆☆☆</p>
<p>平凡なんてあ りえない</p>	<p>原田宗典</p>	<p>エッセー。何というでもない内容だったのか、わたしの頭の問題なのか感想が書けません。。ごめんなさい。別におもしろくなかったというんじゃないけどたんと読み終えてしまって、何も残ってないです。</p>	<p>☆</p>
<p>S L Y</p>	<p>吉本ばなな</p>	<p>昔付き合ってた恋人から自分がH I V が ジティブであることを告白された主人公がその彼と友人と3人で憧れのエジプトへ旅をするお話です。生と死への思いを抱え壮大な景色に包まれて健気な人というもののすばらしさを実感していく登場人物達。ばなな作品には定着してきてる原マスミさんの絵もいいし実際ばなながエジプトを訪れた際の写真もいい。エジプトはとっても行ってみたい国なんだけどとつもなく大きなものを前にしたり、無限に広がる空を見たりすると本当にまっさらな気持ちになれるんだろうな～。</p>	<p>☆☆☆</p>